

## ケージフリー飼養への取り組みについて（2024年10月24日更新）

キューピーグループでは、「良い商品は良い原料からしか生まれない」という信念に基づき、原材料の品質や持続可能性を大切にしています。また、責任ある原材料の調達を行ううえで、家畜の健康と福祉が非常に重要であると考えており、当社グループは、アニマルウェルフェアの基本原則である「5つの自由」に賛同しています。この「5つの自由」は、家畜の精神的及び身体的な幸福を包含する理念です。

キューピーグループはこの理念に基づき、持続可能な鶏卵の調達をめざしています。日本では、「5つの自由」の実現に向け議論が進展しています。一方で規模が大きく、複雑性が高いグローバルな鶏卵産業ゆえ、とりわけ日本においては、大きな変化を生み出すために時間を要しています。そうしたなか、当社グループは、具体的な行動と変化を生み出すことが大切であると考えています。ケージフリー飼養のサプライチェーンがまだ確立されていない市場においては、関連するステークホルダーと積極的に連携しながら、ケージフリー飼養を含む、採卵鶏の健康と福祉の改善に向けた取り組みを進めています。

なお、ケージフリー飼養のサプライチェーンが確立されている米国や欧州において、キューピーグループは、2025年までにキューピーブランド商品の製造に使用する鶏卵原料の100%をケージフリー飼養卵に移行することを発表しており、米国においては2022年にこの目標を3年前倒して達成しています。欧州においても、目標達成に向けて順調に取り組んでいます。

また、グローバルで製造販売しているキューピー マヨネーズのケージフリー飼養卵の使用率を、現在の3%から2027年までに10%に引き上げることを目標（2024年5月31日公表）としており、今後数年以内に2030年に向けた目標を設定する考えです。

キューピーグループは、日本における鶏卵加工業界のリーディングカンパニーとして、2030年までにキューピー マヨネーズに使用する卵の20%にあたる量の国内のケージフリー飼養卵を調達し、ケージフリー飼養卵の普及に努め、国内生産者のケージフリー飼養の拡大を支援していくとともに、市場創りと拡大にも取り組んでいきます。

こうした取り組みを通じて、今後10年間で日本におけるケージフリー飼育の割合を現在の1%から5%に引き上げることをめざします。

一方、「5つの自由」を実現する上での取り組みはケージフリー飼養の拡大だけに留まりません。キューピーグループは、食品安全、養鶏産業従事者の福祉、経済的合理性など、様々なステークホルダーに配慮した解決策を日本で創ることが大切であると考えています。これらの課題解決は、日本でのケージフリー飼養拡大に向けた重要な前提条件です。

日本以外のアジア地域においてもケージフリー卵の調達拡大をめざしますが、調達が難しい地域においては、ケージフリー卵の調達改善に向けた代替策（認証クレジットの活用含む）も検討していきます。

ケージフリー飼養卵の供給拡大という目標に向けて、キューピーグループは継続的な取り組み、透明性ある情報開示、サプライチェーンとの連携を積極的に進める考えです。現時点において、グローバル・サプライチェーン全体におけるケージフリー化について、現在表明している以上の時間軸を伴うコミットメントはできませんが、この目的の推進に向けた取り組みを着実に進めていきます。